

寺だより

22/04/20
第103号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

今年もへんじや参りがやってくる
四月二十四日・二十五日!

きたる4月24日(日)・25日(月)、布
教使さんに山本龍昇先生(加賀市)をお
迎えし、蓮如忌をお勤めします。

『蓮如忌』は、本願寺第八代門主・
蓮如上人の祥月命日の法要です。4月
25日を中心に、日本各地で勤められま
す。

西光寺では、「へんじや参り」と称さ
れるお参りです。



令和3年4月25日

瓶子家で仏事が営まれた後、「へんじ
や御書様
(ごしよ)」
を、さしか
けられた朱
傘のもと、
瓶子家ご当
主がうやう
やしく捧げ
ながら大通
りを歩み、
西光寺に移
して蓮如忌

法要を行います。本堂でのお勤めの後、
また朱傘に守られて瓶子家へ移動しま
す。

特に25日は、正院町雅楽会の先導で、
ご門徒さんも行道に参加します。
当日のお勤めは、組内招待寺院によ
るもので、重々しく荘厳なお勤めです。



御書様の安置・西光寺本堂にて

とし、大勢の方がお参りに来られまし
た。

五十年前には、参道に露店が並び、
こどもにとっても楽しい一日でした。

最近では、参詣の方は少なくなりまし
たが、「御書様(御文)」を瓶子家の当
主が捧げ持ち、道中雅楽の先導で西光
寺まで進む行列は今も続いています。

最近、伝統文化が減りつつあります
が、長い間ご門徒さんが受け継いでこ
られたこの歴史ある「へんじや参り」

かつてはこ
の辺り一帯で、
「へんじや参
り」を目安に
農作業準備が
進められまし
た。

正院以外の
村々からも「へ
んじや参り」
の日を農休み

を末永く継承していきたいと思えます。
是非お誘い合わせの上お参り下さい
ますようお願い申し上げます。

蓮如忌・へんじや参りのご案内

四月二十四日(日)

一時 御書様 瓶子さん宅出発
一時半 おつとめ・御書様拝読
法話

御書様送り出し

四月二十五日(月)

十二時半御書様 瓶子さん宅出発

* 正院雅楽会の先導
一時 おつとめ・御書様拝読
大正琴演奏と合唱

演奏は法和会大正琴
法話

御書様送り出し

布教使 山本龍昇先生(加賀市市)

◎ お参りの際はお念珠、マスクをお忘
れなく。

◎ 受付は、二日間とも午後からとな
りますのでよろしくお願いいたしま
す。

浄土真宗・中興の祖 蓮如上人



蓮如上人像

親鸞聖人が開かれた浄土真宗を、さらに広く全国に広めた立役者が蓮如上人です。

親鸞聖人から大体二百年ほどあとに出られた方ですが、この蓮如上人ほど親鸞聖人の教えを正確に、そして日本全国津々浦々へ広められた方はいりません。ですから浄土真宗では、親鸞聖人を開山聖人、蓮如上人を浄土真宗・中興の祖と仰ぎ、お仏壇に向かつて右側に親鸞聖人の御絵像を、左側には蓮如上人の御絵像をお掛けします。

蓮如上人は、長禄元年（1457）本願寺第八世を継職されましたが、当時の本願寺は経済的に苦しい不遇の時代でした。『本福寺由来記』によれば、京都大谷にあった当時の本願寺は、「人跡たえて、参詣の人一人もみえさせたまわず。さびさびと……」とあります。

継職後、蓮如上人は、精力的な布教活動を始められ、それによって本願寺は大きく伸展しました。そのあまりの勢いに比叡山の僧侶は恐れをなし、本願寺を襲撃するように

なりました。やむなく上人は、比叡山の手が届かない福井県の吉崎へ拠点を移され、吉崎御坊を建立されました。吉崎御坊にはまたたく間に多くの参詣者がつめかけられるようになり、吉崎は大仏教都市になりました。

その後、蓮如上人は、京都山科に布教・聞法の拠点を移されます。そして、文明13年（1802）、京都・山科に御影堂・阿弥陀堂を建て、ついに本願寺の再興を果たされました。

ではなぜ、蓮如上人一代で、これほど浄土真宗は広まったのでしょうか。

その鍵は、蓮如上人の書かれたお手紙である『お文（おふみ）』にあります。



西光寺蓮如上人像

この「お文」が、寺や道場など多くの人が集う中で朗々と代読され、それは門徒から門徒へ競って書き写され、一通の「お文」が数十、数百と膨れ上がり、山を越え、谷を渡って全国へと拡大していききました。

やがて、何通ものお手紙の中から八十通を五冊にまとめた「お文本」が作

られ、ご門徒さんのお家に備えられるようになりました。現在もお取り越しのお勤めやご法事の法話の後に拝読され、また拝聴することが慣例となっています。

ところで、蓮如上人自筆の「お文」は、現在六十三通が現存していますが、そのうちの二通は、じつは「へんじや御書様」に収められています。

「へんじや参り」の二十五日には、この蓮如上人自筆の二通を拝読します。こうして蓮如上人は参詣の人一人もなく、寂れていた本願寺を発展させ、親鸞聖人の教えによって救われたお礼すなわち御恩報謝を、阿弥陀さまと親鸞聖人に対して果たすために、全生涯を捧げ尽されました。

令和4年度護持委員会報告

本年度の西光寺護持委員会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から護持委員会の開催は見送り書面での表決としました。

2月27日（日）、西光寺維持費会計・昨年度決算と今年度予算等について書面表決の集計を行いました。

その結果についてご報告いたします。

護持委員会書面表決の結果報告

議案1 2022年度役員(案)

議案2 御遠忌会計收支決算報告

議案3 2021年度維持費会計收支決算報告

議案4 2021年度一般会計報告

議案5 2022年度維持費会計收支予算(案)

議案6 2022年度行事計画(案)

◎ 議案1から議案6まですべて承認されました。

二〇二二年度西光寺役員会組織

○代表役員 禧美尚章

○責任役員 乙谷衛一・新保七郎・小西堅正

禧美瑠美子

○総代

道下梯子・中堂伊佐男・濱木満喜

桶田絃一・濱田和行・松ヶ瀬昌太

○会計 道下輝男

○監査 森孝司・乙脇善仁

◆門徒会長 乙谷衛一

◇能登教区第10組門徒会会員

西光寺代表 瀬戸谷義信・道下梯子

◇今年西光寺のお世話をいただく護持委員の皆さんです。

濱塚辰雄(飯田)

山本勇一(飯田)

亀田正弘(野々江)

道下秀治(岩坂)

瀨法司忠良(岩坂)

井高茂樹(飯塚)

足袋拔重作(飯塚)

新出武玄(岡田)

北山道弘(東山中)

蒲池幸吉(唐笠)

谷 弘之(飯田)

平地正昭(飯田)

濱坂裕夫(本江寺)

宮崎 茂(岩坂)

奥 敏彦(飯塚)

瀨名俊司(飯塚)

川高晋次(飯塚)

林 進一(東山中)

大野長一郎(東山中)

岡田 直(立町)

森 孝司(三社口)

大鍛冶茂信(神明町)

新出定男(八幡町)

安宅一男(東浜)

岸田 隆(今町)

柳 准三(御城)

新明あや子(小路)

藤田隆二(前浜)

向 和年(狩的)

白潟輝男(粟津)

萩中政一(今町)

瀨名 實(寺丸)

新保日出夫(八軒町)

鹿子田俊彦(黒滝)

濱田和行(蛸島)

◇ 決算・予算の詳細は別紙をご覧ください。

◎ 維持費について

前年度と同額の四、〇〇〇円です。

六月に集金の予定です。

春の彼岸会勤まる



3月21日 春のお彼岸

3月21日(月)、春の彼岸会をつとめました。本堂でみなさんと一緒に「正信偈」を唱和し、その後、住職の法話を聴聞しました。

法話会 今年度第一回開かれる!!

|| 新規会員募集中 ||

4月8日(金)に今年第一回目の法和会がありました。皆さんで正信偈のお勤めをした後、住職が法話を行いました。

10月まで毎月8日に法和会を開きます。聞法の会ですので、中心は仏法を聞くことです。でも、その他に、正信偈を練習したり、童謡や仏教歌・歌謡曲を歌ったり、楽しいことも盛り沢山。

現在新規会員募集中です。会費は年間二千円です。まずは、体験。お寺に参って、お念仏のいわれを聞きましょう。



4月法話会

2023年宗祖親鸞聖御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

～ 団体参拝のお誘い ～

主催：真宗大谷派能登教区第10組

真宗大谷派
東本願寺



南無阿彌陀仏
人と生まれたときの
意味を先ずねていこう

◎ 旅行日 令和5年4月15日(土)～16日(日)

◎ 旅行代金 一人 30,000円～40,000円

◎ 募集人員 10名(西光寺割当)

当日は、130名の珠洲・小木地区の門徒さんたちと、バス4台で本山に向かいます。

	行程	食事
4/15 (土)	貸切バス 能登有料・北陸道・名神道 珠洲 5:00～5:30 奈良OR宇治OR京都 = 琵琶湖温泉(泊) 13:30～15:30	朝× 昼○ 夕○
4/16 (日)	旅館 = 本山慶讃法要お参り = 京都国立博物館「親鸞展」 8:00 9:30～13:30 昼食は本山で 14:00～15:00 京都近郊(お買い物) 名神・北陸・能登有料道路 珠洲 12:30～15:00 22:00ごろ	朝○ 昼○ 夕○

宿泊 琵琶湖温泉：琵琶湖グランドホテル

阿彌陀堂で参拝します

参拝席はすべてイス席です

◆ 参加ご希望の方 西光寺まで、ご連絡下さい。(電話 0768-82-0856)

II 編集後記 II

あるご門徒さんが蓮如上人に聞きま
した。

「仏法の話の聞いている本堂では、
ありがたいのには、本堂から出ると途端
に、もとの心になってしまふ。それは
まるで、かごで水をすくうようなもの
でしようか。少しも持って帰れませぬ」。

お説教を聞いて、ありがたく思っ
たが、お寺を出ると、水をいれたかごの
ようにすっかり水がなくなり、もとの
自分に戻ったやうで残念ですというご
門徒さんの思いをきかれて、蓮如上人
はたった一言、このやうに答えられま
した。

「そのかごを水につけよ」

穴だらけのかごに水をいれても、す
べてもれてしまいますが、水のなかに
あれば、水とかごは離れません。

つまり、かごに水を入れようとする
のではなく、かご自体を水に浸してお
くかのように、自分自身を常に仏法に
浸しておけばいいのですと、おっしゃ
ったのでした。

忘れることを問題にせず、少しでも
多くのみ教えを聞くことを大切にしま
いものです。

南無阿彌陀仏